

になって、もう一度地域づくりとかそういう事業について考えていただくということを、我々市の職員側も本当に任せっきりで非常に無責任な状態の部分もありますので、もう一度そういったところを再構築すべく努力しなきゃいけないと思います。大変ありがとうございました。

○蒲生光男議長 大道寺 信議員。

○8番 大道寺 信議員 以上で終わります。ありがとうございました。

### 梅津善之議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位9番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 6月一般質問最後の出番になりました。いつも最後で、傍聴の方がだれもいなく、寂しい思いもしてたんですけども、きょうは平野地区の地区長会の皆様、大変ありがとうございました。

実は、きのう、10何年かぶりに平野地区のソフトボール大会に出てきまして、いつも10何年前はピッチャーなんですけども、最初からおまえはキャッチャーだということで、足腰がかなりがたがたで、壇上から倒れないように頑張りますので、最後までよろしく願いいたします。

早いもので議員として1年が過ぎました。振り返ると、自分の生活と新たに加わった議員生活との変化の中で、自分なりに大変悩んできました。1年間何もできない自分の情けないところと、悔しいというか、情けない思いで反省するところがいっぱいあります。悩みが絶えない1年でしたけども、ことしも1年、今まで以上に努力してまいりたいと思っております。

さて、田植えも一段落しまして、澄んだ空気とすがすがしい朝を迎えて気持ちを新たにしてい

るところでございます。私自身、心と体のアンバランスでこれも悩んでおるところでございますが、今回の通告の長井市民の健康対策についてということで精いっぱいやりますので、よろしく願いいたします。

まず、1点目の健康診断の受診率向上と具体的な取り組みはということで、まず社会保険に加入している方は、大部分が会社で健康診断などを強制的に受ける機会に恵まれていると思います。一方で、国民健康保険に加入されている方の多くは、会社での健康診断などのように自動的に受けられる機会がなく、市民の健康診断などを受診しない人も多く見られますのが現状です。また、親と生活をともにする若い世代の人たちは、市の健康診断があることこそ知っていると思いますが、いつどうやっに行われているかも知らず、必要性も感じない若い人もたくさんおられると思います。そうすると、健康診断を受けていない人は病気の発見などがおくれしてしまうこともあると思います。その人たちにも確実に健康診断を受けてもらえるような具体的な取り組みなどをぜひお聞かせいただきたいと思っております。

2番目に、食生活改善推進協議会の取り組みをどう市政に生かしていくかということです。

ウオーキングラリーなどさまざまなイベントが、長井市でも健康に関するイベントが行われております。市民はたくさん参加されていると思いますが、健康に対する意識がもっと多く持っていると思います。私といたしましても、せっかく参加しているのに、その後、例えば毎日の食生活で脂っ濃いものを食べたり、そういうことがあると、どうしても運動だけでは健康を保てるとは思っておりません。食生活の面もあわせて考えていってはいかががでしょうか。

健康対策の一環として、市で行っている食生活改善推進協議会があります。先日、今泉議員のところに行って詳しい話をお聞きしてきまし

た。こんな活動をしている会が長井市にあるとは私も知らなかったので、大変勉強になりました。例えば、地元の野菜を使った料理をたくさん考案しています。そのようなことを、例えば長井市のイベントとともに食生活の改善も一緒に行えるような具体的な活動も必要ではないかと思えます。地元の野菜をたくさん使ったメニューを、食生活改善協議会の中ではたくさんメニューとして出しているそうです。それをぜひ市民の方に知っていただき、スポーツや運動も当然でしょうけども、食生活の改善を、家庭でも、地域の食堂であったり、レストランであったり、そういうところの中でも多く普及していただけるよう地域の方に普及する。そして長井市がぜひ健康なまちで、長井市に来れば健康になるといったまちだと言われるようなまちに変えていってはいかがなものかと思っております。

決してお金のかかるようなことではないと思えます。地域の意識とか、みんなで話し合っていることだと思いますので、この辺からまちづくりをしていったらいいかなと思いました。

次に、市民ひとり1スポーツということを長井市で提唱しております。その実態と課題はということで、長井市では、市民ひとり1スポーツを上げています。では、実際どれぐらいの人がどれだけのスポーツをしているというのは、全く目に見えないと思えます。実際のところはどうか。

また、若い世代でも体力のない方がふえていくと聞きます。若い世代の方や、この市民スポーツを知らないと言っている人もたくさんいると思えます。そんな方にも進んで参加していただくような環境づくりなどもしていただきたいと思えますが、いかがですか。

次に、メタボリックシンドロームの状況と実態はということです。

余りいい名前ではないと聞き及んでおります

が、自身、メタボであることはごらんとおりでございます。恥ずかしながらでございますが、なりたくてなっているわけではないということだけご承知していただきたい。

ただ、太っている人だけがメタボだかという、決してそんなことではないと思えます。実は高血圧であったり高脂血症、さまざまな病気が生活習慣病と重なっている状態を総称しているそうです。全国では中年男性の2人に1人、中年女性の5人に1人という高い割合でメタボリックシンドローム予備軍があるとデータとなっています。長井市ではどうなっているのでしょうか。

また、メタボリックシンドロームの原因の一つとして運動不足が上げられますが、例えばフットパス、最上川沿いにできているフットパスなどをぜひもっと市民の方に知っていただき利用していただく。

さらには、食生活の改善、先ほど申し上げましたように、地元の野菜、キノコ、山菜、旬なものをたくさん食べられるようなメニューをいっぱいつくって市民に提唱してはいかがでしょう。

次に、ストレスを残さない生活と対策はということで、近年、不況、生活環境、いろいろな不安によってストレスを抱えている人は多いと思えます。その中で、自分なりの解消の仕方や趣味を持っている人は、ストレスをためることなく過ごしている方もいらっしゃいます。疲れを残さないことや悩んでいることの解消の仕方、例えば運動もそうですし、趣味、個々にさまざまな趣味を持ってられる方は、割とストレスをためないで生活しているように伺っております。趣味をたくさん持って健康な生活ができる、そんなまちづくりに努められるためにも、ぜひたくさんの方のスポーツや趣味を持てるような環境をつくることも大切だと思いますが、いかがですか。

最後に、毎日の食生活の改善の取り組みはあるのかということです。

先日、健康課長にきょうの話をいろいろお伺いに行きました。そのときに、タニタの体組成計を、どうぞ、梅津さん、乗ってみたいかがですかなんていうことで、全然あるのも知らないで健診をさせていただきました。大変優しい保健師さんで、梅津さんはこれこれですねと。筋肉はすばらしくあります、ちょっと足の筋肉は非常に弱っているみたいですねと優しく教えていただきました。食生活も運動もして体質改善をしたらいいですよと、非常に親切にアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

私に限らず、たまたま私は保健師さんに、保健センターに行ってそのようなことをアドバイスを受けましたが、行けなくて、忙しくて行けないとか、行く気もないとか、さまざまあると思いますが、なかなか指導を受けられないで病気になるってしまうとか、そのようなことがたくさんあると思います。

市としても、まず3万人復活はもとより、今いる市民の方が健康で暮らせるような、いつまでも元気で長生きしていただけるような長井市を目指すべきではないかと思っています。

また、個人個人の状況も生活習慣も違うので、それぞれ違った食生活の改善も指導やアドバイスをしていただくことが必要だと考えます。

自分の話で大変恥ずかしいんですが、以上をもって壇上からの質問とします。どうもありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員のご質問にお答えいたします。

私のほうからは、健康対策の基本的な考え方についてお答えをさせていただきまして、健康課長と生涯スポーツ課長のほうからそれぞれの細部についての答弁をいたさせます。

まず、梅津議員がおっしゃいますように、3万人復活というのは復活で、これは一つのスローガンとして大切だと思っていますし、あと幸せを実感できるまちを目指すべきじゃないかという考え方についても、その幸せな暮らしをするには、何といても健康がまず基本にあるわけですから、ですからこれも大切なことだろうというふうに思っております。

健康対策の基本というのは、今月の1日に厚生労働省が発表しました、いつまでも元気で長生きすることに着目した健康寿命の延伸にあるというふうに思います。日本人の平均寿命は大幅に伸びまして、今では世界有数の長寿国なわけですが、これからは一生のうちで健康面の支障がなく日常生活を送れる期間をできるだけ長くしていくことが大事だと思います。

そのためには、食事、運動のほか、いろいろな要素が関係しておりますので、その実現を目指す計画が必要だということになると思います。

ことしは、健康づくりのマスタープランになります「第2次健康日本21ながい」の策定の年度に当たっておりまして、各分野のそれぞれの皆様からご意見を伺いながら進めてまいりたいと思います。

また、市民の方からも、例えば年齢は若くても女性特有のがん、例えば乳がんなどの検診は受けられないのかと。これは40歳以上になっておりますが、現実的には30代で発病して、検診が対象になってないもので手遅れだったというケースがそんなに珍しくない状況になっておりますので、長井市としても独自の課題として検討しなければならないと考えているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○蒲生光男議長 松木幸嗣健康課長。

○松木幸嗣健康課長 梅津善之議員のご質問にお答えしたいと思います。

私のほう、何点かございますので、順次お答

えさせていただきたいと思えます。

最初に、健康診断の受診率向上の具体的な取り組みはということで、確実に健診を受ける取り組みということをお願いしたわけなんです。長井市の特定健康診断の受診率は、平成22年度には前年度より4.1ポイントほど上昇いたしまして32.7%という形です。しかしながら、県内順位は1ランク上げたんですが、まだまだ下位のところで32位という形になっております。また、23年度はまだ確定していませんが、ほぼ前年度より若干アップしているんじゃないかなというふうに思っております。

その取り組みであります。まず最初に、やはり現況を把握するということが大事だろうなというふうに思ひまして、ことしの1月、健康診断についての意向調査を実施させていただきました。受診予定者は45.4%、これに対して受診しないというふうに答えた方は49.8%と、しないとお答えした人が上回っているというようなことであります。そういった方の内訳を見ますと、64%が通院していると。どこかにかかっているのが大丈夫というふうなお答えだと思っております。そういった結果が出ております。まずはこの未受診者の方の対策を進めなければならぬというふうに考えております。

未受診者の対策としましては、健診を申し込まなかった方に受診勧奨を促すという意味で、受診者すべてにも配っているんですが、しなかった方についても受診券の発行、さらにはその後電話による受診勧奨を行っていききたいというふうに思っています。

また、健診を受ける環境づくりということで、集団健診につきましても、予備を含めまして今年度は30回という非常に大きな回数を確保させていただきましたし、このところ好評をいただいています個人的な、個別的な健診、開業医さんのご協力をいただいている健診につきましても、一つではございますが、実施期間を

ふやすことができました。また、ことしは検査項目としまして、血清クレアチニン検査ということで、いわゆる腎臓機能の検査を充実させるということができまして、健診の有益性等も高めたというふうに思っております。

そのほか、やっぱり確実に受けるという意味で、健診の道具ですね。グッズを、基本的には1カ月前には配らせていただくと。ただ、もし場合によってはちょっと外れるときがありますんで、期間がある場合は隣組回覧でぜひ受けてくださいという、そういった広報も行っていきたいというふうに思っております。

このほか、いろいろ健康情報であるとか市報に載せたり、看板、チラシ、企業訪問等も行っていきたいと。こんな形で確実な健康診断に向けて取り組んでまいりたいというふうに思っております。

2番目に、食生活改善推進協議会の取り組みはどう生かしていくのかという点であります。もう事前に調査なさっているようでございますんで申し上げるほどでもないんですが、食生活改善推進協議会の皆さんは現在153名の会員で組織しております。事業といたしまして、研修会、料理教室、市報への三つ星レシピの掲載などをはじめ、地域の栄養教室やミニデイサービスでの協力をしていただいております。また、その研修内容を伝達研修という形で、会員に限らず地域の市民の皆さんも巻き込んで普及をしていただいているという形であります。

食生活改善の皆さんは、我々の塩分摂取の減少であるとか、出ていまして野菜の摂取などということについても非常に取り組んでいただいている、我々の推進する有力なパートナーだなというふうに思っていますし、地域にもいますので、地域の皆さんでも食生活面の応援をしていただけるという方だと思っております。

ご質問の中でありまして、地域の皆さんと一体にという部分ですが、ぜひ伝達研修を、飲食店

の方でも参加していただいても結構ですし、お話にありました運動後のレシピはどうなんですかという、そういったことに活用していただいてもよろしいのかなというふうにも思います。各地で開催しているようでございますので、参加いただければと思っています。

また、このたび置賜保健所が中心に、市内の健康づくり協力店ということで11店舗のチラシを作成するということになりました。この中では、メニューにエネルギーや塩分の栄養成分の表示を進めているという活動を始めておりますので、こういった活動についても当方としましても推進していきたいなというふうに思っているところであります。

次に、メタボリックシンドロームの実態と対策は何かということですが、メタボリックシンドロームの実態の指標となります内臓脂肪症候群該当者、これは簡単に言うと、腹回りが85センチ以上で高血圧であるとか高血糖とか脂肪異常というのが2項目以上の方であります。この方と、その予備軍についてであります、これは腹囲が85センチ以上で該当項目1つという方なんです、その合計が受診者に占める割合としまして、22年度データによりますと、25.6%ということで、ほぼ4人に1人という割合です。県平均よりは、県平均が26.8%ですんで下回っております。ただ、そのうち予備軍の該当者だけの割合を見ますと、県平均より若干上回っているということです、早目の対応が必要であります。

それにつきまして、月並みですが、適切な運動、食事の啓発、保健師による指導ということがあります。食事についてはバランスのよい食事が基本になりますが、適切な食事の内容と量を知ることが大切になります。ご質問にありますキノコ等の話が出ておるんですが、野菜と同様とみなしまして、1日350グラム摂取としていけばよろしいのかなというふうに思っ

ています。

運動についてですが、健康づくりの運動として代表的なものは、もうご案内のとおり、歩数にあります。歩数を増加させるということがあります。データ等を見ますと、男子が目標8,000歩に対しまして測定値としまして6,420ということで若干おりにています。女性は7,500歩に対しまして5,267歩と、これも若干おりにてるので、歩数をふやしていくということが必要になっていきます。

まずは、やはり各自の体重に応じて、摂取カロリーであるとか、運動の消費カロリーと、こうありますので、その基本的な知識を普及していくということが大事なかなと思っています。また、ご質問にありましたように、やっぱり運動を続けるということが大事でありまして、これは国のほうで何かでいっているようですが、運動を続けるというのには、できるという見込み感がやっぱり大事だといわれています。ですので、ご質問にありましたフットパスを生かすとか、仲間づくりをやると。やってよかったという実感ができるというようなことを、市長が申し上げます「第2次健康日本21ながい」の中で検討していきたいというふうに思っております。

また、なかなか体脂肪というののははかりづらいということで、議員のほうから、タニタの体組成計の話まで出していただいてありがとうございました。こちらにつきましては、保健センターや地区公民館の活動の中で、内臓脂肪のレベルを測定する体組成計の測定等をやりたいなというふうに思っているところであります。

あと続きまして、ストレスを残さない生活と対策ということですが、これもデータの最初紹介させていただきますと、健康づくりの休養、心の健康データを見ますと、ストレスを解消できない人の割合、これが目標が29.5%に対しま

して55.9という非常に高い数値があります。ただ、やっぱりストレスというのは各自の個性でありますとか、環境でありますとか、種々の原因があるというふうにも考えられますし、ストレスの程度というんですかね、重く感じる人、低く感じる人、これも個人差があるということでございますので、個人に合った解消法、これは質問の中でも出ておるような、いろいろ事例が出ているとおりでありますして、何かしら解消事例を見つけるということが大事なのではないかと思っています。

こういったところになかなか難しい部分があるんですが、保健師のほうにもこういった相談を対応するように、またストレス解消にかかわる啓発運動、活動も地道に続けるというようなことをやっていきたいと思っています。

最後に、毎日の食生活改善の取り組みはというところではありますが、食生活改善の第一歩はやっぱり適切な食事の内容と量を知ることが大事でありますして、これもまたこのデータを見ますと、適切な食事の内容と量を知らない人となると、50%程度、半分しかやっぱりいないということですので、地域での栄養教室等々のPR活動がやっぱり必要だと思っています。栄養のバランスをよくする、いわゆる腹八分目がよいというのはもうご承知のとおりですが、最近夕食の時間が遅いと肥満傾向があるといわれていますし、食事時間帯のとり方やそしゃく、よくかむこと、これが満足感を促すということで、食事の量を改善することに役立つということなどあります。これは、個別の保健指導ではやってきているようなことではありますが、もう少し地域のほうにも広めていくというような努力をしていきたいと思っています。

また、保健指導、今回保健センターのほうに議員来ていただきまして、おいでいただいた際にさせていただいたんですが、指導は受けやすいように、希望者の時間帯に合わせて現在も平

日で調整させていただいてやらさせていただいているところであります。そして、相談に来た方の各自の状況に合わせて保健師にも対応させるように指導しているところでございます。以上です。

○蒲生光男議長 佐藤孝博生涯スポーツ課長。

○佐藤孝博生涯スポーツ課長 梅津議員の質問にお答えをさせていただきたいと思っております。

私からは、市民ひとり1スポーツの実態と課題は何かについてであります。平成23年度の市民ひとり1スポーツの実践に向けた取り組みにつきましても、各種市民大会に2,060名、市民スポーツ教室に200名の参加をいただきました。また、市民小出プール、道照寺平スキー場、パークゴルフ場等の開設で延べ1万6,300名ほどの利用をいただいております。また、市内小中学校体育館等の夜間開放では、50団体978名の皆さんが自主サークル等で活動を行っております。その他、スポーツ少年団31団体、体育協会加盟団体26団体が活発な活動、大会、教室等の展開をしていただいております。

市民のスポーツ活動への取り組み状況、市のスポーツ人口につきましても、確たるところは把握をしておりますが、昨年6月、総合型地域スポーツクラブ創設に向けて、市内小中学校にお願いをいたしまして、児童生徒の皆さんを通して、児童生徒、保護者、祖父母等の皆さんを対象に、スポーツに関するアンケート調査を実施させていただきました。限られた年代層になりますが、成人の調査結果について一部ご紹介をさせていただきたいと思っております。

アンケートの回収数であります。児童生徒2,086名、保護者、祖父母等3,147名の方から回答をいただきました。保護者、祖父母等の年齢構成は、当然ではあると思っておりますけれども、31歳から40歳が40%、41歳から50歳が36.64%と全体の77%となっております。

「体力づくりが必要と感じていますか」の質

問では、とても感じている44.86%、感じている45.08%、ほとんどの方が健康、体力づくりの必要性を感じていらっしゃいます。

「スポーツを行っていますか」の質問では、行っているは34.68%で、そのうち週1回から2回行っている方が13.51%で一番多く、ほとんど行っていない人は65.32%となっております。

行っているスポーツの種目では、ウォーキングが30.87%で一番多く、次いでジョギング、サイクリングが上位に来ております。

スポーツをする理由では、健康増進のため、ストレス解消やリフレッシュが圧倒的に多く、みんなと一緒に活動したいという方も上位のほうに入ってきております。

スポーツをしない理由では、時間がないからが47.49%で圧倒的に多く、次いで、きっかけがないからが18.17%となっております。この部分についても大変重要な部分というふうに感じているところであります。

また、若い世代の体力低下につきましては、総理府の調査によるものですが、成人世代別の週1回以上のスポーツ実施率によりますと、20代、30代の実施率は他の世代と比較すると低いというデータが出ておりまして、若者の体力低下につながっているものと推測されます。

このアンケート調査の結果から、多くの皆さんが健康や体力づくり、スポーツ活動が必要であると考えていますが、いろいろな条件の中でなかなかスポーツに取り組めないでいる市民の皆さんが多い状況でありますし、スポーツ実施率はまだまだ低い現状であると認識をいたしております。

このような状況も踏まえ、より多くの市民の皆さんがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じまして、いつでもいつまでもスポーツに親しむことができるスポーツ環境を整備するため、現在、総合型地域スポーツクラブ創設

に向けて取り組んでいるところであります。

スポーツが苦手な人でも楽しく気軽にスポーツに親しめる環境、そしてコミュニティが生まれるスポーツクラブをつくり上げていかなければならないと思っているところであります。また、健康づくりに関係する機関等と連携を図って、タイアップ事業等も展開できるような取り組みを進めていきたいと考えているところであります。以上です。

○蒲生光男議長 梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 答弁ありがとうございます。

非常に自分のことと言いつらい話にいつもなってしまうんですけども、小さいころから非常に貧しくて育ってきたものですから、まずご飯は黙ってさっさと食べて仕事したり勉強すんだということを教えらっちえ育ってしまったとか、そういう時代だったんだかもしれませんが、ゆっくりかんで食べて家族の団らんを楽しみながらなんていうのは、本当に最近、私が大きくなってから出てきたような気がしますし、時代の流れとともに、経済の変化もあって、余裕のあるような生活ができるようになって、ゆっくり食事を楽しむなんていうことが、近年、なってきたと思うんです。それが、どうしても豊か過ぎて、現在の食生活が豊かに過ぎると私自身思っていて、それがどうしてもこのような状態を招き出しているのではないかなと自分なりに考えているところです。

いろいろ自分、やってきたことも考えますと、どうしてもやり過ぎたり、特に過ぎることが決して体にはよくなくて、悩みの種になって、ストレスを生んで、それがまた食べるという悪循環のスパイラルになっているような気がします。

そこで、今回もさまざまな議題が市長のほうから提案なされているようですけども、よくその議題をかみしめながら、そしゃくしながら考えてもかみ切れないことが自分なりにたくさん

あって、どうしたらいいかなと悩むことがストレスになっています。その辺が市長にもお伺いしたいことなんですけども、市長もいろいろ悩みが多いことと存じますけども、その辺は市長、どのように考えていらっしゃるかお聞きしたいなど。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私のメタボの原因も、梅津議員のほうからご指摘いただきましてありがとうございます。

同じように、やっぱりストレスというのはよくないことだと思いますが、一度メタボの健診受けられてみるといいと思いますが、私も実は受けても余り意味がないと思ったんですが、やっぱりどういものか聞いてみる必要があるなと思って受けたんですが、そうしましたら、初めてですと言われました。そういう議員とか首長さんがメタボの健診を受けにくるのは初めてですと言われましたけども、やっぱり原因は、大抵わかっているんですね。梅津議員もわかっているんじゃないかと思うんですが、自分でもう一回冷静になって自分を見詰めるためにいいのかなど。何が原因なのかなど。食事に走ってはだめだなとか、あるいは夜遅く食べるとだめだななど。

結構市民の皆様も同じような、ある程度自分で原因はわかるんだと思うんですね。ただ、やっぱり仕事でいろいろいらしたり、あと対人関係でストレスを感じるというのはすごくあることなものですから、ただ、議会と私、執行者、提案側というのは、やっぱり議論をしながら一致点を見出すということですから、これは違うのはむしろ当然なのかもしれません。立場が違いますので。ですからそこは余り、私も気にしていませんし、梅津議員も気にする必要はもろもないわけですが、ただ、前に進めるにはどこかでやっぱり一致点を見出さなきゃいけないということで、同じように、健康対策も市

民の皆様と、保健師さんなんかもこういろいろ頑張っているんですが、どうしても人数が限られていますので、そういったところを含めて、もっと市民一人一人のお立場からどうしたらいいかということを再度検討しなきゃいけない課題だと思います。

お求めいただいた回答にはならないかもしれませんが、よろしくお願ひします。

○蒲生光男議長 梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 私もメタボなので、両親もしかり、妻にでもなんですが、食うなどと言われるわけですね。何々食うなど、食うなって、食べるななんて言われっことがストレスだって私は言うんですけども、だれかに何かすんななんて言われるぐらいごしゃげることない、その辺は市長も同じだと思いますが、ただ、私の後ろにはもう優秀な15人も立派な先生方がいらっしゃるわけで、市長はたった一人なわけです。ぜひその辺は体を大事にされ、当然長井市も大事にしながら、市政運営を頑張っていただきたいなという思いで、この題材に取り組んだわけです。その辺をぜひ市長にはご理解をいただきたいなと思います。

さて、ちょっと話かわるんですけども、4月の中下旬でしたか、葉山登山が長井市の企画であったんです。私、葉山に登ったことなく、一度は登りたいなと思いながら、我妻議員に誘われて、行きましようなんていう話で、いいかげんな上のそらの、「あ、はい」なんて返事してたんですけども、当日雨降ってくればいいなと思いながら降らなくて、妻にリュックサックを借りて、おにぎり2個たがって行って来たんですけども、すばらしい眺めを、初めて登って、そんな余裕もなかったんですけども、見せていただきました。長井市には本当に何も建物なんか建てなくても、すばらしい山なんかもたくさんあるんだなということも身をもって実感しましたし、経済が下り坂と申しますけど、

登ったんですけども、途中で何度も引き返そうかなと自分自身、心折れるぐらい思ったんですけど、何とか上まで登らせていただいて、人よりちょっと早目に下山させていただきました。その下りがもう非常に大変で、自分の体を支えていくことがどれぐらい大変かななんていうのも、自身、体験したところで、やっぱり将来に私みたいにいっぱい負担を残さないような市政運営をしていくには、すっきりとしたことの市政運営が非常に大切でないかなということをも身をもって思いましたし、一番最後のおり口にいつも見たくない妻を呼んでおったんですが、いつもはけんかばかりしているんですが、ほっとした、妻の顔を見てほっとしたところでした。

ぜひ市長も、経済がこういうふうには活発になっているような状態ではないということは理解していただいて、今後の市政運営に反映していただければありがたいものかと思いますが、その辺はいかがですか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 いろいろご忠告いただきましてありがとうございます。

ただ、私はちょっと梅津議員と認識が違っていて、やっぱり困っている市民の方はたくさんいらっしゃるわけですよ。私は何も新たな投資をすることがいいというふうには必ずしも言ってないです。じゃあほかに何か市民の皆さんの例えば雇用という要望にこたえる手だてをほかに提案してくださいよ、ぜひ。そういうふうにして議論して方向性を導いていくべきだというふうに思います。

悪いところのご指摘とか、もちろん批判は、当然議会ですからもちろん必要ですけども、そういう、何ていうんでしょうか、比較されて私をたしなめていただいているわけですけども、非常に私としては余りすっきりしないですね。むしろ、梅津議員が一番若いわけですから、正面から議論すべきだと思います、私は。確かに

ね、私も太っていますけども、だから下り坂は大変だから無理するな、そういうふうにご忠告いただいているんだと思うんですけども、本当に深刻ですよ。だって、お年寄りだけの世帯がどんどんふえているというのは、原因は何でしょうか。いろいろあると思いますけども、一つは、確かに経済は活発ではないですよ、もちろん。でも、地域によってはそういう地域もあるじゃないですか。長井市をどういうまちにすべきかということ、私は市民と皆様と、いろんな団体の皆様といろんな意見交換をして、場合によっては新たな投資も、これはリスクはありますけども、リスクを恐れてばかりもいられないところはあるんじゃないかと。現に民間の企業の皆さんとか、あるいは農業者の皆さんだってそうですよ。新たな事業をされるときはリスクあるわけでしょう。だけど、それを頑張って皆さん乗り越えていらっしゃるわけだから。行政は石橋をたたいても渡らないというぐあいには昔は言われていましたよ。でも、そういういい時代はいいんですけども、こういう厳しいときこそやはりどうしたらいいかということ議論すべきじゃないでしょうか。

ですから、批判は批判で結構ですけども、今みたいなお話というのは、ちょっと私はそうじゃなくて、もうちょっと正面から意見交換をさせていただければというふうに思います。

○蒲生光男議長 梅津善之議員、発言通告内容に沿って質問してください。

○2番 梅津善之議員 大変失礼しました。市長のおっしゃることは十分わかりますし、私もどうしてもそういうやりたがりなほうで、いろんなことをやってきたと、自分の経営も含めてですけども、そう思っております。

ただ、何でもやり過ぎはどうしても気をつけないといけないんだなということをも身をもって思っておりますし、ふっと立ちどまって考えるときも人間はあつていいんじゃないかなと思っ

ているところです。

市長のお考えは十分に理解できますし、正面から来いということでございますが、今回は通告しておりませんので、次回にとっておきます。

大変失礼なご質問をして申しわけなかったとおわび申し上げて、質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○蒲生光男議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

## 散 会

○蒲生光男議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 2時45分 散会